

第41回

白門祭

サイキカンパツ

テーマは **祭喜観発**

才気と喜びがはじけだす！



白門祭実行委員会が発行したパンフレット
タイムテーブル・企画案内・飲酒について・
ミニオープンキャンパス・時刻表・
中大大学スタンプラリーの台紙等、盛りたくさん!!



野点

「堪能した「野点」の時空間
中ステから〇〇〇〇が聴こえる。桜
広場に敷かれた畳のうえでおとなし
く正座をしている最中である。
友人のTと澄まして乗り込んだの
は、茶道部が主催する「野点(のだ
て)」。予約した時間に客として招か
れ、おもてなしを受ける。
そのもてなしというのは、三曲

「白門祭」スケッチ
見て！ 聞いて！ 撮った！

の竹桐会とのコラボによる生BGM
であったり、懐紙に乗せられた煉切
(ねりきり)であったり、拝見する
お茶碗であったり。挙げるならばき
りがない。つまるところは、茶道部
の面々がプロデュースする時空間と
受け取ってよいのではないだろうか。
お作法はままならず、「これでい
いの?」「わからん。まったくもっ
てわからん」と終始きよろきよると
左右を確認しながらのぎこちない私
たちだったが、おいしいお茶で身も
心も芯まで温かくなった。
20分ほど堪能したのち、退席する
はずが、余韻と足のしびれで立ち尽
くしたのは言うまでもない。(穂)

シックなコーヒー屋さん

ペデ下に行くと、物凄い数の出店
が目飛び込んでくる。ウン、何や
ら良い匂いが漂ってきた。
匂いにつられて行ってみると、そ
こはコーヒー屋さんだった。黒い看



蝶ネクタイがイキ

板で全体的にシックで、どこか他の
出店とは違う雰囲気をかもし出して
いる。

メニューを見たら、エチオピアモ
カやマンデリンなど意外に種類も豊
富で驚いた。「まあ寒いし喉も渇い
たし、一つ買ってみるか」と100
円出して買ってみた。一口飲んでみ
ると挽き立てのコーヒーで、舌が火
傷するのではないかと思うくらいに
熱々だった。

おもしろかったのが店員さんの服
装だ。黒のスーツに蝶ネクタイ、ま
さにカフェのオーナーさながらとい
う感じ。『直火焙煎』というお店の

看板にふさわしく、心身ともに温ま
る一杯のコーヒーだった。(亜)

学生俵屋さん

粋な半纏姿の若者たちが威勢のい
い掛け声とともに人力車を駆って
いた。

白門祭3日目、ペデ下の2号館前
で遭遇した学生俵屋さんは設立22年
のインカレサークルで、東京近郊の
学園祭や地域のイベントに向いて
は、お客さんを乗せて人力車を曳い
ているようだ。

「毎週日曜日を中心に、年中いろ
いろなところに行っています。上野



車をひく安島さん

公園、読売ランド、巣鴨地藏通り…」

と20代目頭領の安島義裕さん(中央
大学経済学部3年)。夏休みには2
週間の合宿があり、三重から京都ま
でを人力車を曳きながら走破したと
いう。

すごい。さらには鈴鹿サーキット
の外周まで周ってきたというから驚
きである。

お客さんを乗せて大きな人力車
を引っ張るのはとてもハードなので
は? と尋ねると、意外にも「いえ、
そうでもないんですよ」との答え。
人力車のタイヤに工夫がしてあるた
めラクに動かせるのだそうだ。そう
いえば女性の「車婦」さんも多い。

「新入生には安全講習もしていま
す」。やはり一番に考えているのは
お客さんの安全で、車夫さんたちは
お客さんに恐怖感を与えないように
するため、座席が平行になるよう腰
をかがめて車を曳いている。これでは
いくらタイヤに工夫があるとはい
え大変だ。

無料ではなくお金をいただいても
いいのでは? と、あさましくも口
にしたところ、「僕たちは『曳かせ
ていただいている』という気持ち

でやっているのですそれは出来ないで
す」ときっぱり否定されてしまった。
「少ない時間だけど、人力車を通
しているいろいろな人に出会えることが
魅力。一期一会を大切にしたいです
ね」と語る安島さん。実に謙虚でい
なせな人である。(希)

「お笑い」はライブがいい

商学部棟ペデ上に、ひときわ目を
引く大看板が設置されていた。そこ
には「お笑い白門亭 4時間ぶち抜
きライブ」の文字。ただでさえお笑
いは好きなのだけれど、これは味わ
なければ! そう感じた。



満席のお笑いライブ

入ってみると、中教室にぎつしりと並べられたパイプ椅子には座りきれず、立ち見も出ている大盛況の状況。あまりのことに最初は目を疑ったけれど、舞台上に視線を注いでいるうちに私もすっかりとその一部になってしまっていた。

撮影用のカメラを携えていたけど、やっぱり生の空気を味わってこそである。ひたむきさが集客に結びついて、「笑い」に換わる瞬間に居合わせることができた。「お笑い」はライブがいい。(穂)

初の試み

「ゴミステーション」

今年初めて目にしたのは、「ゴミステーション」。テントの下に分別用の大きなゴミ箱が並べられ、スタッフがびったり常駐していた。

「白門祭に来られたお客さんや環境研究会からのご指摘もあり、今年



空手



パイ投げ



チアリーディング



笑顔のVサイン

から始めた取り組みなんですよ」と、白門祭実行委員会スタッフの阿部純一さんと足立慧さん。

スタッフ76人全員がローテーションを組んで6箇所のゴミステーションに立ち、分別を呼びかけながら通常の2〜3倍の大きさのゴミ袋を一日に十数回もとりかえる。ゴミを回収する業者の方からは「いい試みだね」と感謝された、という。夜、1日分のゴミを集めた光景は見モノだ。

問題もある。「中大生は元々分別の意識が低いんです」と阿部さん。確かに校内のゴミ箱は普段、主に2種類しか見かけない。

「それなので初めは呼びかけるのが大変でしたね。初日はグチャグチャでしたよ」と阿部さんは苦笑する。しかし、3日目にもなると、学生もお客さんも少しずつ分別に慣れてきた。「呼びか



ゴミステーション

けを続けることで皆の意識が少しずつですが変わってきました。

学祭のために。環境のために。そして学生の意識のために。『縁の下』の努力と苦勞に感謝しなくては、と思いつつながら記者もゴミを分別して捨てると・・・「ありがとうございませす!」。スタッフに逆にお礼を言われてしまった。

(香)

小さな男の子にもらった幸せ

周囲の喧騒から離れよう、と入った学食は普段とは違っていた。そこは一般のお客さんで賑わっていた。学生ばかりのいつものとは違う新鮮な

雰囲気を感じた。

少し遅めのお昼ご飯だったけれど、学生は屋台で腹ごしらえかあ、なんて考えながらぼんやりとしていたら、親子のこんな会話が耳に飛び込んできた。

「おとうさあ、もう食べていいよ!?!」

「いいよ!!」

ドレッシングをかけに席を立っている父親の背中に向かってちいさな男の子が、お昼ご飯のつたトレイを目の前に、もう待ちきれないといった様子で声をかけていたのだ。

私がジンときたのはそのすぐあとだ。男の子が手を合わせ、自分しか聞こえないようなかすかな声で



女装が似合う

3号館のあたりをぶらついていると、一際目立つたて看板があった。それはまるで花札のように色彩豊かな絵。良く見てみると絵画同好会の展示で、展示名は『百花繚乱』とある。興味湧き、入ってみると四方を取り囲む壁にはそれぞれの個性あふれる作品が所狭しと並んでいる。とはいえ、ただ作

花に囲まれた絵画

「イタダキマス」とつぶやいた様子なのだ。きっと、いつもそうしているのだろう。そのかわいらしい仕草に、なんだか、すごく幸せな気持ちになった。

(穂)

品を並べているわけではなく、工夫がこらしてある。

床を見ると、一面に花々。まるでお花畑が広がっているかのようである。ここは華道部の展示じゃないのかと思うほどだった。花々に囲まれゆつたりと作品を一つ一つ見ることができた。心休まる時間と空間を与えてくれたような気がする。

『百花繚乱』という名のとおり、作品と花とが咲き乱れる展示だった。

(亜)



花いっぱい絵画展

逸品ぞろいの陶芸市

モノレール側から階段を昇りべ

デ下の風景が開けたかと思うと、広いゴザの上に置かれた沢山の陶器がバツと目に飛び込んできた。人の流れが多い好立地で、足を止めて作品に見入る人も多い。

陶芸研究会が毎年開催している陶器市。お客さんの応対で忙しい中、沢田憲吾さんと橋田紗也加さんに「ミニインタビュー」を試みた。

ずらりと並んださまざまな陶器は、白門祭に向けて学生たちが1ヶ月前から制作した。作品を焼き上げるには60時間も要するそうで、ずっと窯の前から離れられずに寝ずの番をしたという。

丹精を込めて作られた逸品がそろそろ。上級生が手がけた花器などの作品にはアートフェスティバルに出品したものもあるそうだ。値札に目を



リピーターも多い陶芸市

まいったが、聞く例年の売上高はかなりの金額である。でもそのほとんどはサークル活動に還元されて次の作品制作のための土と灯油、釉薬の代金に充てられてしまうのだそうだ。

インタビュー中にもお客さんは増え、大変



陶芸づくりを楽しむ

向けると値ごろなものでは1500円からあり、大きな花器ですら3000円程度と非常にリーズナブルな価格設定。

利益は出るのかとつい心配してしま

な盛況に。土曜日ということもあってか学外からいらっしやっただと思われの方が大勢見受けられた。「手作り感があっていいですね。既製品より素敵だと思います」とは湯のみを

いきものがかりコンサート
二度とないこの瞬間！
全11曲に聞き惚れる

11/1・クレセントホール

買っていかれたお客さんの印象。

沢田さんも「自分の作ったものが買ってもらえるとうれしいですね」とはにかみながら話してくれた。(希)

さつきまでのざわめきが一瞬で消えた。会場が暗くなり、「わーっ」という歓声と拍手につつまれる。水

野良樹 (g & vo)、山下穂尊 (g & harmonica)、そして吉岡聖恵 (vo) がステージにあらわれた。

♪1) コイスルトメ

ゆったりしたラブ・バラードでスタート。のびやかな歌声が会場をすっぽり包み込んでいく。その歌声に、みんな一瞬で引き込まれた。

「みなさんこんにちは、元気ですか？」と吉岡が呼びかけた。明るく、元気な声がよく響く。

♪2) KIRA ★ KIRA ★ TRAIN

♪3) HANABI

♪4) 夏色グラフィティ

さわやかな曲で一気に会場も夏色に染まる。

ここで、「改めてこんにちはは」いきものがかりです」とあいさつ。

「実は受験生のころ中央を受けたんですけど、落ちました。念願の中央に連れて幸せです(笑)」とリーダーの水野が言うと、会場から笑いもれる。

♪5) 心一つあるがまま

♪6) 目とあたしと冷蔵庫

しっとりとしたバラード。ひとつひとつの言葉がときざさつてゆく。

「楽しんでますか？ いろんなところで学園祭で行っていて、他は



コンサート入場者をチェック

ろんな人が来ているけど、今日は中大の人ばかりだね。勉強してますか？」との問いに、「おっつ」と一部から声があがる。

「女の子元氣〜？」と吉岡が呼びかけると、「わっつ」と、女の子は声をあげた。「じゃあ今度は男の子男の子元氣〜？」と言うと、「おっつ」と、さっきよりも大きく低い声がひびき渡った。これに吉岡は、「男の子のほうが元氣だね。じゃあもう一回女の子いくよ。女の子元氣〜？」「わっつ」と声があがるが、やつぱり男の子のほうがはるかに大きかった。女の子の気持ちを書いた曲が多

いから、女の子のファンが多いかと思つたら、男の子も結構来ている。

♪7) 青春のこびり

ノリのいい曲で一氣に会場もヒートアップする。そのままの勢いで次の曲へ。

♪8) ホットミルク

これもノリのいい曲。途中、吉岡が「ジャンプ！ジャンプ！」と会場に声をかける。

♪9) つるわしきひと

ここまで歌ってきているのに、音量がずつと変わらない。のびやかで、それでいてどこか切ない、人の心を惹きつける歌声。

会場からの「かわいい〜」との声に、吉岡は「ありがとうございます」と答える。

「次で最後の曲になります」と言う時、「やだ〜」との声が会場からもれる。吉岡がこれに、「あたしもやだ〜(笑)」と負けずに答えた。

いよいよ最後の曲。「この曲は、いつも自分の大切な人を思い浮かべて歌っています。だからみんなも大切な人を思い浮かべて聴いてください。」

♪10) 茜色の約束

最近テレビでよく耳にするこの曲は、auのCMで流れている。07年10月24日にリリースされたばかりの曲。

「ありがとうございます」との声に、こちらは拍手で応える。そして彼らがステージから去って行っても、その拍手は鳴りやまず、そのままアンコールを求める速い拍手に変わっていった。「アンコール、アンコール」と呼びかけ続けると、またステージに登場してくれた。

「発表があります。来年の春にツアーが決まりました!! みなさんよければ来て下さい」と水野。「学園祭かつて、この瞬間は二度とは

ないものだと思うから、何年後かに思いだしたときに財産となるものだから、今そういう瞬間に、立ち会えてうれしいです」。このあと演奏されたのが、

♪11) SAKURA

彼らのメジャーデビュー曲。いつかは終わってしまう一瞬を大事にしているからこそ、どこか切ない曲を聴かせてくれる。

「本当にありがとうございます!!」。拍手で会場が包まれるなか、手を振ってステージをあとにした。(学生記者 武田朋美||法学部2年)

「皆さん、こんにちは。来てくださったありがとうございます」

拍手と歓声に迎えられ、倉木麻衣がステージに登場した。アコースティックギターにキーボード。倉木麻衣を含め、ステージ上には三人だ

けた。

「始めて来たんですけど、緑にあふれて、自然があつて、癒されます」との言葉にどこからか笑いもれる。

「こういつたかたちで学園祭に参

加えてもらってうれしかったです。最後までよろしくお願ひします。まず、デビュー曲でもある『Love, Day After Tomorrow』です。聴いて下さる。」

「おっ」と歓声があがった。結構なファンも来ているらしく勢いがすごい。

1) Love, Day After Tomorrow
歌詞の「Love」という部分を観客が一緒になって叫ぶ。

「どうもありがとうございます」。「まっいっ！」という声援がところどころから聞こえる。

2) 風の心

ひとつひとつの言葉を大切に、透きとおる声で歌う。楽器が少ない分だけ、声がよくわかる。でも実は今日は、「風邪をひいてしまって、声がでてない」という。「だいじょうぶー？」との声が飛ぶ。「みなさんも風邪に気をつけて下さい」。

「大学の学園祭とかって、みんな一体となつてつくりあげていくものだから、すばらしいと思います。今日、このライブを通して私もそこに参加できるのでうれしいです」

「次の曲は友人にむけて書いた曲

です。『happy days』聴いて下さい」

3) happy days

「このカバー曲を一曲歌います。この曲は、通学中によく聴いていた曲で、夢と希望を与えてくれる、大切な曲です」。

4) Over The Rainbow

ジャズのスタンダードナンバー。誰もが一度はどこかで耳にしたことのある曲に、透きとおる、それでいて芯のある声がよく合う。

「今年に入って、音楽制作のほうをずっとしていて、やっとできました。ラブソングです。冬の暖かい一曲に仕上げようと思いました。『Silent love ~ open my heart ~』聴いて下さい」

5) Silent love ~ open my heart ~

「中国と韓国、台湾のほうに行き、初めてアジアで楽曲制作をしていました。そこで思ったのは、音楽は人の心をつなげるということです。次の曲は、中国のサッカーの試合で歌った曲です。中国語で歌いたいと思います」

6) Born to be Free

中国語で歌われたこの曲はノリが

よく、会場の雰囲気も熱くした。

「次は、苦しいことや悲しいことにも、一緒に立ち上がってがんばろう、という意味を込めた曲です」

7) Stand Up

「Stand Up」と、観客も一緒になつて叫ぶ。倉木麻衣が「奥のみんなも！『Stand Up!』」とさあみんな、『Stand Up!』と呼びかける。

「デビューしてからステージに立つて歌うことができるのは、こうやって応援してくれるみなさんがいてくださるからです。本当に感謝しています」

8) always

温かくなる曲。会場が一体となる。曲が終わると、「ありがとうございます！ありがとうございました」と言つて、会場全体から拍手と歓声がまき起るなか、会場から去つて行った。すぐに会場からアンコールが叫ばれ、倉木麻衣が再びステージに現れた。

「皆さん、本当にありがとうございます。一緒にがんばっていきたいという意味をこめた新曲です。聴いて下さい」

9) BE WITH U

「本当に素敵な時間を過ごすこと

ができてます。本当にありがとうございます」

「次は、誰にだつてチャンスはある、そんな思いをこめて、『Chance for you』。よかつたら一緒に歌ってください」

10) chance for you

「今日はほんとに最後まで私の歌をうけてくださつて、ありがとうございます。今日は3日で、まだ学園祭があるのですが、皆さんこのあとも、悔いを残さないように素敵な時間を過ごして下さい。ありがとうございます」

ステージから倉木麻衣がいなくなつてもなお、拍手とアンコール、「まっい」などと叫ぶ声が続く。するといきなり、ステージが明るくなった。観客の高まる期待のなかで、倉木麻衣が現れる。「皆さんの熱い気持ちに答えて、もう一曲。ここで演奏されたのは、

11) Stay by my side

「皆さん本当にありがとうございます。そう言つて、拍手喝采をあびるなか、深く丁寧なお辞儀で締めくくった。」

(学生記者 武田朋実 II 法学部 2年)